

# 特記事項について

具体的な特記事項の書き方の演習

# 事例 Aさんの場合

Aさん 73歳 男性

既往歴 脳梗塞後遺症による右片麻痺

環境 戸建に息子夫婦と同居。  
1階に本人の居室、風呂、トイレ、食堂、洗面所がある。  
トイレを和式から洋式に改修し、廊下には手すりをつけている。  
日中も誰かはいるが、目が行き届かない時がある。  
現在は、介護サービスは使用していない。

## <概 況>

- ◆ ほとんど自室でテレビを見て過ごしている。
- ◆ 右上肢に力が入らないため、自分では挙げられないが、他の人が行くと、右肩に痛みはあるものの、60度ぐらいまでは挙がる。
- ◆ 食事は、1日3回、食堂で食べている。利き手(右)に麻痺があるため、食器をテーブルに置いたまま、左手でフォークやスプーンを使い食べている。ほとんど、自分で食べているが、食器の隅に残ったものは、毎食、家族が食べさせている。
- ◆ 右下肢は椅子に座って膝をまっすぐ水平には挙げられるが、その状態で保持することは難しい。
- ◆ 居宅内の移動は、ゆっくり手すりや壁をもって歩いている。
- ◆ トイレは自室の横にあり、1日5~6回ほど手すりを持って一人で行っている。しかし、週に1~2回程度は、トイレまでの移動に時間がかかり間に合わないことがある。その際の掃除は家族がしている。
- ◆ 移動時つまづくことがあるが、転倒はここ半年間で1~2回程度である。家族は、目の届く範囲で気をつけて見るようにしている。
- ◆ 1日1回、洗面所で顔を洗う。
- ◆ 1日1回、自宅の風呂に入る。
- ◆ 外出は週1回の通院のみで、その際には転倒しないように、家族が手を引いている。

# 特記事項の記載例

## 2-2 移動について

【選択肢】

「介助されていない」

【特記事項】

日常生活における移動の機会は、食事(3回/日)、排泄(5～6回/日)、洗面(1回/日)、入浴(1回/日)。手すりや壁につかまりながらゆっくり移動している。

つまづくことはあるものの、転倒は半年間に1～2回程度であることや、家族も目の届く範囲での見守り程度であるため、「介助されていない」を選択する。

外出は、週1回の通院時で、その際は、転倒しないように家族が手引き歩行をしている。

# 特記事項の記載例

## 2-4 食事摂取について

【選択肢】

「一部介助」

【特記事項】

利き手(右)に麻痺があるため、食器をテーブルに置いたまま、左手でスプーンやフォークを使用して、自分で食べている。

器の隅に残ったものは、毎食、家族が食べさせているため、「一部介助」を選択する。

# 特記事項の記載例

## 2-5 排尿について

### 【選択肢】

「介助されていない」

### 【特記事項】

排尿回数は5～6回/日程度。

一人でトイレに移動し排尿しているが、トイレまでの移動に時間がかかり、間に合わないことが週に1～2回程度ある。

失敗時は、家族が掃除をしている。

より頻回な状況から、「介助されていない」を選択する。